

団塊世代のライフスタイルと 学習に関するアンケート調査

2005年度

社団法人 京都勤労者学園

I. 調査の概要

京都勤労者学園は、京都府の援助を得て、本年度の調査事業として「団塊世代のライフスタイルと学習に関するアンケート調査」を実施しました。この度、以下の通りその結果がまとまりました。

1、調査の目的

「2007年問題」として扱われていますが、団塊世代の人たちが定年年齢を迎え、そのことがもたらす影響がいろんな分野であられる、とされています。実際にこの数年間のうちに定年年齢を迎える人がどのような生活設計をもっておられるか、また意識の傾向はどうか、などを把握し、学園事業や行政施策、労働組合活動への参考に供するため実施したものです。

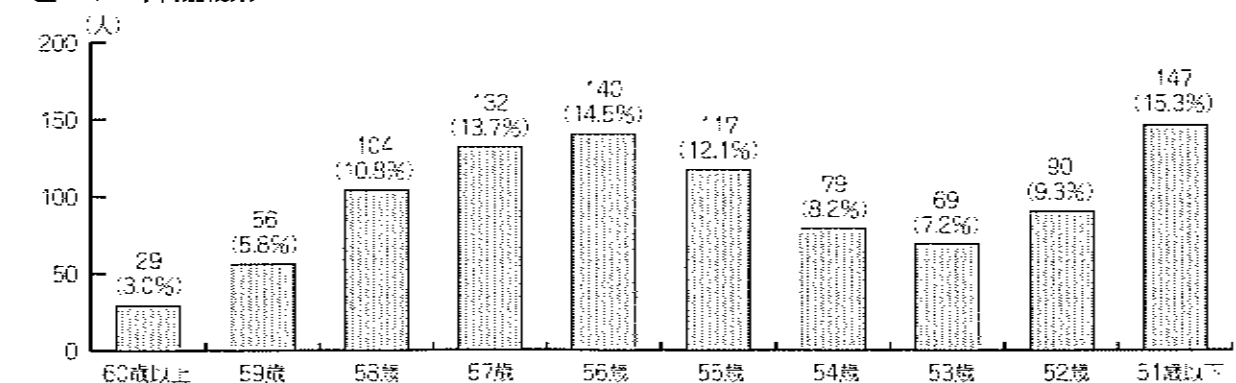
2、調査の方法

京都市内の労働組合の協力を得て実施しました。ローカルセンターである連合京都と京都総評を通じて各単位組合に所属する50歳以上の組合員を対象に配布、回収したものです。特定の年代者だけを対象にするため、配布、回収が思うようにはかどらず、2000枚を配布しましたが、実際の回収枚数は965枚にとどまりました。調査の企画、結果の分析は京都社会労働問題研究所の協力を得て行いました。

3、調査対象の構成、分布

アンケート回答者総数は965人で、その内訳をみると、男女別には男性比率が91.4%と圧倒的に高く、これまでの各種調査の中でもきわだっています。年齢別には昭和24年生まれの人が多く、昭和22年から25年生まれのいわゆる「団塊世代」が51.1%と過半数を占め、昭和26年生まれ以降の人が39.9%、昭和21年生まれまでの人が8.8%となっています。また、家族構成別では、「夫婦と子供」世帯が半数近く、親との同居家族も16.6%あります。

図－1 年代別構成



一方、収入別には「500万円以上700万円以下」の層が最も多く38.1%を占めます。次いで「700万円以上1000万円以下」が34.3%で「500万円以上」の合計は74.8%に達します。「500万円以下」は全体では22.7%ですが、女性では59%を占めています。労働者の平均的賃金分布水準より相当高い水準といえます。このように、今回の調査対象労働者の構成が、正規雇用労働者比率の圧倒的に高い労働組合の組織状況を反映していることや女子の比率が特別に低いことなど現在の労働力分布状況を等しく反映したものにはなっていない点を考慮しなければならないでしょう。

表1 回答者の構成（性別・世代別）

年代／性別	男	性	女	性	合	計
A（～21年）	75	7.8%	10	1.0%	85	8.8%
B（22～25年）	460	47.7%	33	3.4%	493	51.1%
C（26年～）	346	35.9%	39	4.0%	385	39.9%
N/A	1	0.1%	1	0.1%	2	0.2%
合 計	882	91.4%	83	8.6%	965	100.0%

表2 回答者の構成（性別・職種別）

職種／性別	男	性	女	性	合	計
現業	460	47.7%	13	1.3%	473	49.0%
販売	29	3.0%	2	0.2%	31	3.2%
事務	202	20.9%	48	5.0%	250	25.9%
技術・農林	112	11.6%	3	0.3%	115	11.9%
その他	65	6.7%	13	1.3%	78	8.0%
N/A	14	1.5%	4	0.4%	18	1.9%
合 計	882	91.4%	83	8.6%	965	100.0%

表3 回答者の構成（性別・年収別）

年収／性別	男	性	女	性	合	計
300万円以下	32	3.6%	19	22.9%	51	5.3%
500万円以下	138	15.6%	30	36.1%	168	17.4%
700万円以下	350	39.7%	18	21.7%	368	38.1%
1000万円以下	320	36.3%	11	13.3%	331	34.3%
1000万円以上	23	2.6%	0	0.0%	23	2.4%
N/A	19	2.2%	5	6.0%	24	2.5%
合 計	882	100.0%	83	100.0%	965	100.0%

表4 回答者の構成（家族構成別・収入別）

	300万円以下	500万円以下	700万円以下	1000万円以下	1000万円以上	N/A	合計
一人	5	20	21	17	1		64
夫婦二人	14	27	63	64	3	2	173
貴方と親、子供	5	12	14	13	0	2	46
夫婦と親	2	3	16	14	2	3	40
夫婦と子供	19	82	198	169	11	10	489
夫婦、親、子供	3	15	45	50	6	3	122
その他	3	9	10	4	0	1	27
N/A			1			3	4
合 計	51	168	368	331	23	24	965

表5 回答者の構成（世代別・年収別）

	A（～21年生まれ）		B（22年～25年）		C（26年～）		N/A	合計
年収 300万円以下	14	16.5%	22	4.5%	14	3.6%	1	51 5.3%
500万円以下	15	17.6%	96	19.5%	57	14.8%		168 17.4%
700万円以下	22	25.9%	184	37.3%	162	42.1%		368 38.1%
1000万円以下	29	34.1%	172	34.9%	130	33.8%		331 34.3%
1000万円以上	1	1.2%	9	1.8%	13	3.4%		23 2.4%
N/A	4		10		9		1	24 2.5%
合 計	85	100.0%	493	100.0%	385	100.0%	2	965 100.0%

Ⅱ、調査の結果

1、「定年まで働きたい」は85.4%

～定年制と雇用延長制度～

「定年制がある」ところは99.3%に及び、その内「60歳定年」が95.9%で、法律では違反とされる「55歳定年」が10人、「57歳定年」が3人あります。

そして、その定年まで現在の勤務先で働きたいかを聞いたところ、「定年まで現在の勤務先で働きたい」という人は全体の85.4%を占め、「早期退職したい」人は8.0%（77人）にとどまります。「早期退職したい」人の内訳をみると、昭和26年生まれ以降、すなわち54歳より若い世代が57.1%強を占めています。また、「早期退職したい」人は、定年後の生き方についても「職業生活から引退」を希望している人が多く（36.4%）、収入の高低による影響はわずかなようです。

また、「早期退職したい」人も、「職業生活から引退したい」や「ゆっくりしたい」が主な理由で、「自営業をしたい」とか「起業に挑戦したい」には繋がっていないようです。

○勤務先に定年後の雇用延長制度が導入されているという人は、アンケート実施時期が改正高年齢者雇用安定法施行前にもかかわらず、75.4%に達しています。

表6 定年まで働けますか

	A（～21年生まれ）		B（22年～25年）		C（26年～）		N/A	合計
現在の勤務先で働き続ける	79	92.9%	431	87.4%	312	81.0%	2	824 85.4%
早期退職したい	2	2.4%	31	6.3%	44	11.4%		77 8.0%
その他	2	2.4%	28	5.7%	24	6.2%		54 5.6%
N/A	2		3		5			10 %
合 計	85	100.0%	493	100.0%	385	100.0%	2	965 100.0%

2、継続して働きたい高齢者層、団塊以下世代は「引退」「ゆっくり」

～定年後の勤務について～

定年後の希望する勤務先について聞いたところ、「現在の勤務先で継続して働きたい」という人は340人、回答者の35.2%を占め、「まだ決めてない」（32.3%）、「しばらくゆっくりして考える」（11.9%）と続き、「職業生活から引退したい」は8.0%で、「起業に挑戦したい」は5人、0.5%にとどまっています。年齢別にみると、58歳以上の人では「現在の勤務先で継続して働きたい」が60.0%と高く、団塊世代では37.7%、さらに54歳以下世代では26.8%、と年代によってかなり違います。また、54歳以下世代では、「まだ決めてない」「しばらくゆっくり」が合わせて49.6%を占め（58歳以上の人では24.7%）、「希望としてはゆっくりしたいが定年が現実になると…」という傾向でしょうか。定年年齢との間にまだ少し年数がある世代と定年年齢が間近に迫り現実対応が余儀なくされる世代の間には大きな違いが生まれています。また、54歳までの人では「他の勤務先をみつけない」も一定の比重を示しています（10.1%）。50歳代の前半は働き盛りの世代ですが、「目一杯」で疲れている感じ、ネガティブ・シンキング傾向が垣間見られます。

年収別にみると、「現在の勤務先で継続して働きたい」が比較的高いのは「年収300万円以下」（51.0%）、「700万円以上」で37.3%となっています。一方、「職業生活から引退」が相対的に高いのは「700万円以上」で、9.3%に達します。家族構成別には、「現在の勤務先で継続して…」

が相対的に高いのは「夫婦二人」世帯（45.7%）で、「一人」「貴方と親、ないし子供」世帯では、「職業生活から引退したい」（6.3%、19.6%）「しばらくゆっくりしたい」（25.0%、13.0%）が相対的には高いようです。

表7 定年後の勤務について（世代別傾向）

	A(～21年生まれ)		B(22～25年生まれ)		C(26年～)		N/A	合計	
現在の勤務先で働きたい	51	60.0%	186	37.7%	103	26.8%		340	35.2%
他の勤務先をみつけない	7	8.2%	24	4.9%	39	10.1%		70	7.3%
自営業をしたい			14	2.8%	8	2.1%		22	2.3%
起業に挑戦したい			5	1.0%				5	0.5%
職業生活から引退	5	5.9%	36	7.3%	35	9.1%	1	77	8.0%
まだ決めていない	11	12.9%	153	31.0%	147	38.2%	1	312	32.3%
しばらくゆっくり	10	11.8%	61	12.4%	44	11.4%		115	11.9%
その他			11	2.2%	7	1.8%		18	1.9%
N/A	1		3		2			6	
合 計	85	100.0%	493	100.0%	385	100.0%	2	965	100.0%

図-2 定年後の勤務について（年代別比較）

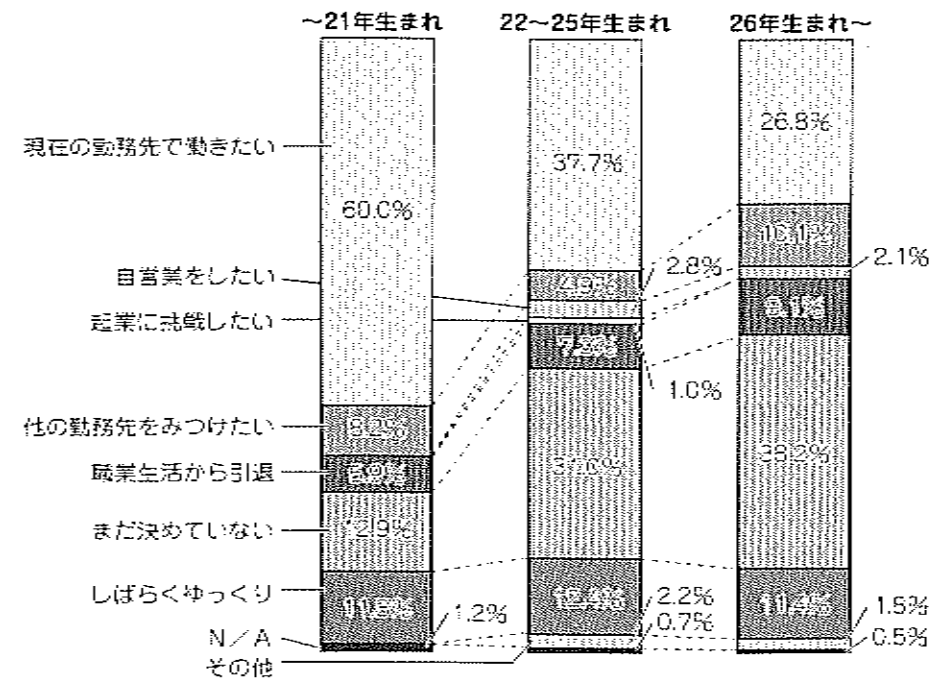


表8 定年後の勤務について（年収別動向）

	300万円以下		500万円以下		700万円以下		1000万円以下		1000万円以上		N/A	合計	
現在の勤務先で働きたい	26	51.0%	55	32.7%	119	32.3%	125	37.6%	7	30.4%	8	340	35.2%
他の勤務先をみつけない	1	2.0%	8	4.8%	26	7.1%	31	9.4%	2	8.7%	2	70	7.3%
自営業をしたい	1	2.0%	0		12	3.3%	9	2.7%	0			22	2.3%
起業に挑戦したい	0		2	1.2%	1	0.3%	2	0.6%	0			5	0.5%
職業生活から引退	2	3.9%	12	7.1%	28	7.6%	32	9.7%	1	4.3%	2	77	8.0%
まだ決めていない	8	15.7%	56	33.3%	133	36.1%	96	29.0%	12	52.2%	7	312	32.3%
しばらくゆっくり	11	21.6%	29	17.3%	38	10.3%	33	10.0%	1	4.3%	3	115	11.9%
その他	1	2.0%	4	2.4%	10	2.7%	3	0.9%	0			18	1.9%
N/A	1		2		1						2	6	
合 計	51	100.0%	163	100.0%	368	100.0%	331	100.0%	23	100.0%	24	965	100.0%

図-3 定年後の勤務について（収入別比較）

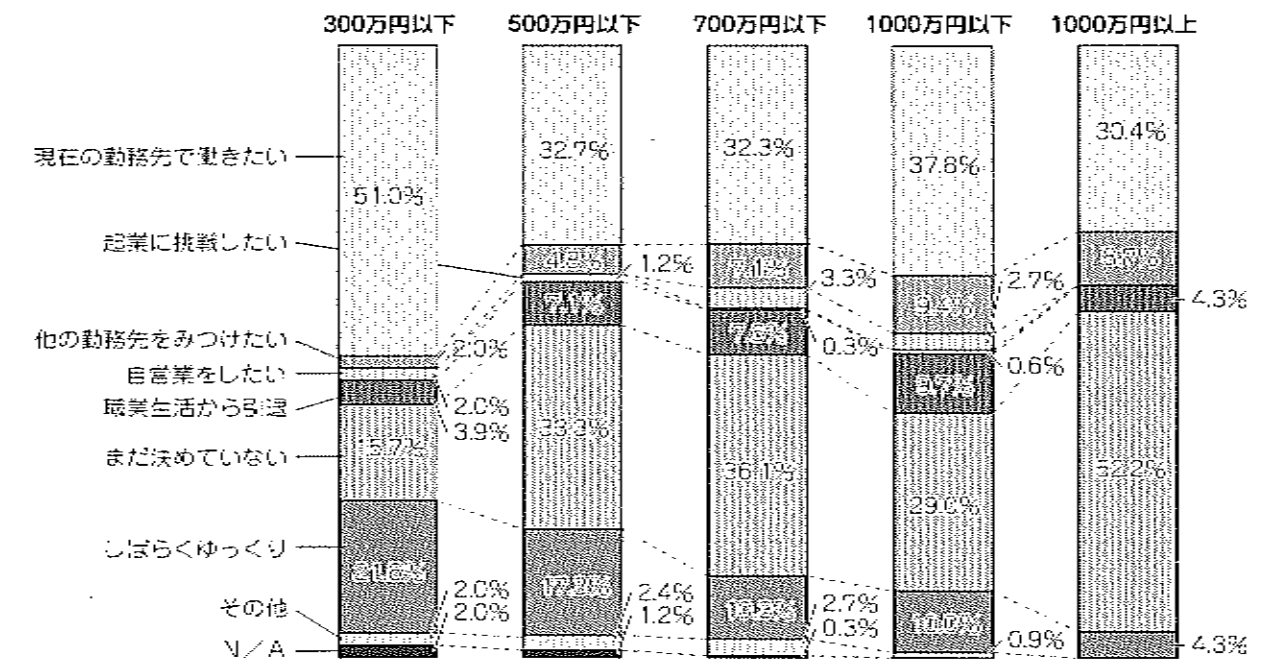


表9 定年後の勤務について（家族構成別）

	一人	夫婦二人	親、子供	天婦、親	天婦、子供	天婦、親、子供	その他	N/A	合計
現在の勤務先で働きたい	17	79	10	13	173	44	3	1	340
他の勤務先をみつけない	4	9	4	2	40	10	1		70
自営業をしたい	1	3	1	2	10	5			22
起業に挑戦したい		2			2	1			5
職業生活から引退	4	12	9	4	38	7	2	1	77
まだ決めていない	19	47	14	14	169	34	13	2	312
しばらくゆっくり	16	19	6	4	48	18	4		115
その他	2	2	2		7	3	2		18
N/A	1			1	2		2		6
合 計	64	173	46	40	469	122	27	4	965

3、定年後も働きたい理由は経済的理由

～働きたい理由と仕事の内容～

定年後、仕事を続けたい人の理由を聞きましたが、何らかの理由を示した人、すなわち「仕事を続ける」意志のある人は796人で、全体の82.5%にあたります。世代別にみると、年齢の高い世代（昭和21年生まれ以前の人）で87.1%、団塊世代で83.6%、54歳以下世代で80.0%、と若干の差異があります。「働きたい理由」をみますと、最も多いのは「経済的な理由」で66.8%、次いで「健康維持のため」が32.8%、「社会的に現役でいたい」が20.2%、「家にいても退屈」が16.8%と続きます。「経験や技術を活かしたい」（12.4%）、「仕事を通じて社会に貢献したい」（10.3%）、「仕事に生き甲斐を感じている」（6.3%）はそれぞれ小数派にとどまっています。

これらを界層別にみると、●年代別特徴としては、高年齢層で「家にいても退屈」（20.2%）、「健康を維持するため」（39.2%）、「社会に貢献したい」（13.5%）が平均値より高い比率を占めています。団塊世代では「社会的に現役でいたい」（21.6%）、「経験や技術を活かしたい」（13.3%）などが平均値より高めです。54歳以下世代では「経済的な理由」（69.5%）が平均値よりかなり高い比率になっています。

表10 定年後仕事を続けたい理由（世代別傾向）

	A(～21生まれ)	B(22年～25年)	C(26年～)	N/A	合計
社会的に現役で	10 13.5%	69 21.6%	61 19.8%	1	161 20.2%
経験や技術を活かしたい	11 14.9%	55 13.3%	33 10.7%		99 12.4%
仕事に生き甲斐	10 13.5%	26 6.3%	14 4.5%		50 6.3%
経済的な理由	43 58.1%	273 66.3%	214 69.5%	2	532 66.8%
健康を維持するため	29 39.2%	144 35%	88 28.6%		261 32.8%
社会に貢献したい	10 13.5%	38 9.2%	34 11%		82 10.3%
家にいても退屈	15 20.2%	68 16.5%	50 16.2%		134 16.8%
その他	3 4.1%	12 2.9%	12 3.9%		27 3.4%
N/A	11	81	77		169
合 計	131/74	705/412	606/308		1346/796

表11 定年後仕事を続けたい理由（年収別傾向）

	300万円以下	500万円以下	700万円以下	1000万円以下	1000万円以上	N/A	合計
社会的に現役で	7 14.9%	13 9.7%	71 22.5%	62 23.8%	4 19.0%	4	161 20.2%
経験や技術を活かしたい	3 6%	11 8.2%	42 13.3%	38 14.6%	2 9.5%	3	99 12.4%
仕事に生き甲斐	5 10.6%	5 3.7%	22 7.0%	13 5.0%	1 4.8%	4	50 6.3%
経済的な理由	27 57.4%	95 70.9%	221 70.2%	165 63.2%	10 47.6%	14	532 66.8%
健康を維持するため	16 34.0%	32 23.9%	112 35.6%	84 32.3%	9 42.9%	8	261 32.8%
社会に貢献したい	3 6.4%	14 10.4%	35 11.1%	26 10.0%	2 9.5%	2	82 10.3%
家にいても退屈	8 17.0%	26 19.4%	53 16.8%	40 15.3%	3 14.3%	4	134 16.8%
その他	4 8.5%	5 3.7%	8 2.5%	7 2.7%	2 9.5%	1	27 3.4%
N/A	4	34	53	70	2	6	169
合 計	73/47	201/134	564/315	435/261	33/21	40/15	1346/796

図-4 定年後仕事を続けたい理由（収入別比較）

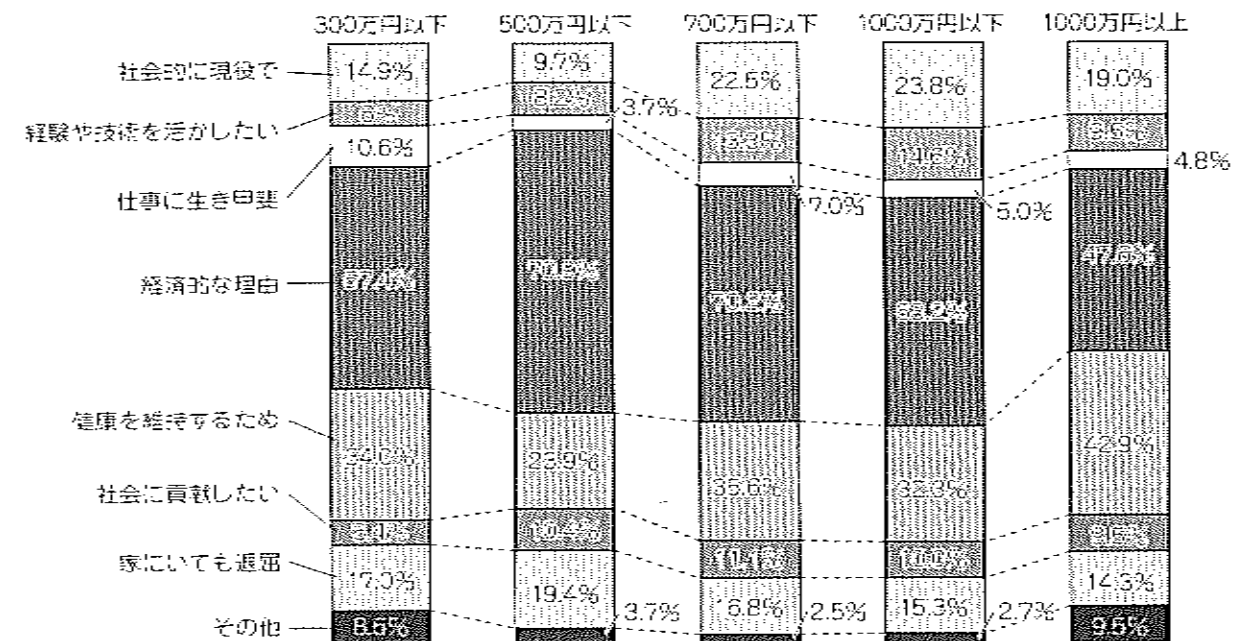


表12 定年後仕事を続けたい理由（家族構成別）

	一人	夫婦二人	親、子供	夫婦、親	夫婦、子供	夫婦、親、子供	その他	NA	合計
社会的に現役でいたい	16	38	7	11	65	22	2		161
経験や技術を活かしたい	4	13	4	3	53	17	4	1	99
仕事に生き甲斐を感じている	2	11	6	5	20	5		1	50
経済的な理由	33	91	20	17	294	65	9	3	532
健康を維持するため	12	47	9	13	137	37	6		261
仕事を通して社会に貢献	10	14	4	1	36	15	1	1	82
家にいても退屈	8	29	2	7	71	14	3		134
その他	2	5	4	1	11	2	2		27
N/A	14	23	11	10	83	18	9	1	169
合 計	57/53	248/150	56/35	39/33	687/406	177/104	27/18		1346/796

●年収別での特徴では大きな差異はないものの、「経済的な理由」が多いのは「500～700万円」層（70.2%）、「300～500万円」層（70.9%）です。収入の高い層では「健康を維持するため」（1000万円以上層で42.9%）が多いほか、「経験や技術を活かしたい」「社会に貢献したい」が相対的には高いように思われます。「仕事に生き甲斐を感じている」は全体で6.3%と極小数派ですが、年収300万円以下層で2ケタ（10.6%）を占めるのは感心します。●また、家族構成別にみると、「夫婦と子供」世帯で「経済的な理由」が72.4%と特に高いものとなっています。次いで「経済的な理由」が高いのは「一人」世帯（66.0%）、「夫婦、親、子供」世帯（62.5%）で、「健康を維持するため」が相対的に高いのは「夫婦、親」世帯（43.3%）、「夫婦、親、子供」世帯（35.6%）、「夫婦、子供」世帯（33.3%）で、「社会的に現役でいたい」が高いのは「一人」世帯（32.0%）、「夫婦、親」世帯（36.7%）、「夫婦二人」世帯（25.3%）です。

○意外と多い非常勤・パート志向

～定年後の働き方～

定年後の働き方では、「週5日程度の常勤」を望む人は、全体で47.9%と、5割をきっていま

す。特に女性では18.0%と低く、「非常勤・パート」志向が58.0%を占めています。

求人状況が、雇用機会均等法において男女の差別があってはならないものの、現実には高年齢の女性の場合、常勤での求人が極端に少ないという実態を反映しているのではないのでしょうか。

●年収別では「常勤」志向は「500～1000万円」の層で高く（50.9%）、「非常勤・パート」は「700万円以上」の層で比較的高い（34.4%）ものの、年収による格別の違いは見当たりません。また、世代別にも大きな特徴は無いようです。

何歳まで働きたいかを聞いたところ、男性の場合は「年金支給開始年齢まで」が47.6%と半数近くを占めますが、女性の場合は「ずっと働きたい」が48.0%と、男女間で多少の差異があります。収入別では、「年金支給開始年齢まで」が多いのは「年収700～1000万円」の層（51.7%）で、「300万円以下」層では「ずっと働きたい」が最も多く（38.3%）なっています。

表13 働きたい時間（性別傾向）

	男 性	女 性	合 計
常勤（週5日程度）	372 49.9%	9 18.0%	381 47.9%
非常勤・パート	228 30.6%	29 58.0%	257 32.3%
わからない	139 18.6%	11 22.0%	150 18.8%
N/A	7	1	8
合 計	746 100.0%	50 100.0%	796 100.0%

表14 働きたい時間（年収別傾向）

	300万円以下	500万円以下	700万円以下	1000万円以下	1000万円以上	N/A	合計
常勤	21 44.7%	54 40.3%	159 50.5%	134 51.3%	6 28.6%	7	381 47.9%
非常勤・パート	15 31.9%	47 35.1%	91 28.9%	90 34.5%	7 33.3%	7	257 32.3%
わからない	11 23.4%	31 23.1%	60 19.0%	36 13.8%	8 38.1%	4	150 18.8%
N/A		2	5	1			8
合計	47 100.0%	134 100.0%	315 100.0%	261 100.0%	21 100.0%	18	796 100.0%

表15 働きたい時間（世代別傾向）

	A（～21年生まれ）	S（22年～25年）	C（26年～）	N/A	合計
常勤（週5日程度）	37 50.0%	194 47.1%	150 48.5%		381 47.9%
非常勤・パート	26 35.1%	138 33.5%	93 30.1%		257 32.3%
わからない	9 12.2%	75 18.2%	66 21.4%		150 18.8%
N/A	2	5		1	8
合計	74 100.0%	412 100.0%	309 100.0%	1	796 100.0%

表16 何歳まで働きたいか（性別傾向）

	男 性	女 性	合 計
年金支給開始年齢まで	355 47.6%	20 40.0%	375 47.1%
70歳くらいまで	122 16.4%	3 6.0%	125 15.7%
ずっと働きたい	234 31.3%	24 48.0%	258 32.4%
その他	32 4.3%	2 4.0%	34 4.3%
N/A	3	1	4
合 計	746 100.0%	50 100.0%	796 100.0%

表17 何歳まで働きたいか（世代別）

	A（～21年生まれ）	S（22年～25年）	C（26年～）	N/A	合計
年金支給開始年齢まで	30 40.5%	214 51.9%	130 42.2%	1	375 47.1%
70歳くらいまで	21 28.4%	54 13.1%	50 16.2%		125 15.7%
働ける間はずっと働きたい	20 27.0%	123 29.9%	115 37.3%		258 32.4%
その他	3 4.1%	19 4.6%	12 3.9%		34 4.3%
N/A		2	1	1	4
合 計	74 100.0%	412 100.0%	308 100.0%	2	796 100.0%

表18 何歳まで働きたいか（年収別傾向）

	300万円以下	500万円以下	700万円以下	1000万円以下	1000万円以上	N/A	合計
年金支給開始年齢まで	16 34.0%	67 50.0%	143 45.4%	135 51.7%	8 38.1%	6	375 47.1%
70歳くらいまで	12 25.5%	15 11.2%	45 14.3%	46 17.6%	4 19.0%	3	125 15.7%
ずっと働きたい	18 38.3%	39 29.1%	112 35.6%	72 27.6%	9 42.9%	8	258 32.4%
その他	1 2.1%	10 7.5%	14 4.4%	8 3.1%	0	1	34 4.3%
N/A		3	1				4
合 計	47	134	315	261	21	18	796

4. 高い年金依存度～老後の収入源～

（収入をとまなう）仕事から退いた後の収入源について聞いたところ、「本人と配偶者の年金」（78.6%）が圧倒的に多く、「預貯金の取り崩し」（36.2%）でカバーするという生活設計のようです。年金にも公的年金と私的年金、企業年金がありますが、公的年金への信頼が弱まっている今日、私的年金への期待も広がっているのではないかと思います。設問でその辺を分解して設ける必要があったのではないかと思います。所得間では、所得の高い層の方がより「預貯金の取り崩し」や「資産運用による収入」などの比率が高くなっています。所得の低い層では「預貯金の取り崩し」（19.6%）も低いものとなっています。

表19 （収入をとまなう）仕事から退いた後の収入は

	男 性	女 性	合 計
本人と配偶者の年金	693 78.6%	66 79.5%	759 78.7%
年金と配偶者の収入	143 16.2%	6 7.2%	149 15.4%
子供や孫からの援助	16 1.8%	1 1.2%	17 1.8%
預貯金を取り崩す	314 35.6%	35 42.2%	349 36.2%
資産運用による収入	41 4.6%	2 2.4%	43 4.5%
自営業収入	31 3.5%	0	31 3.2%
その他	33 3.7%	7 8.4%	40 4.1%
N/A	3	2	5
合 計	1274 144.4%	119 144.4%	1393 144.4%

表20 (収入をともなう) 仕事から退いた後の収入は

	300万円以下	500万円以下	700万円以下	1000万円以下	1000万円以上	N/A	合計
本人と配偶者の年金	34 66.7%	131 78.0%	290 78.8%	266 80.4%	18 78.3%	20	759 78.7%
年金と配偶者の収入	9 17.6%	24 14.3%	62 16.8%	48 14.5%	3 13.0%	3	149 15.4%
子供や孫からの援助	2 3.9%	5 3.0%	3 0.8%	7 2.1%	0	0	17 1.8%
預貯金を取り崩す	10 19.6%	62 36.9%	128 34.8%	133 40.2%	8 34.8%	8	349 36.2%
資産運用による収入	2 3.9%	8 4.8%	14 3.8%	16 4.8%	2 8.7%	1	43 4.5%
自営業収入	2 3.9%	2 1.2%	14 3.8%	13 3.9%	0	0	31 3.2%
その他	3 5.9%	7 4.2%	14 3.8%	9 2.2%	0	1	34 3.5%
N/A	0	1	3	1	0	0	5
合 計							382 143.2%

定年後の生活を考える上で必要な情報としては、「年金・医療など社会保障に関する情報」(49.9%)がトップで、次いで「健康問題や病院などの情報」(25.1%)です。女性の場合、順位は全体の動向と同じですが、「趣味」(14.5%)「各種学習・教育機関」(8.4%)など、関心事は横断的なように思われます。

定年後の人生は？～価値基準～

また、定年後人生の価値基準を聞いたところ、「自分がしたいことのために」が68.4%と高く、「家族・親族のために」(51.6%)を上回りました。複数選択が可能な設問で、「地域のために」は15.5%あるものの、「世の中のために」(9.7%)は一ケタにとどまっています。世帯別では、「夫婦、親、子供」の三世帯同居の世帯では「自分がしたいことのために」は64.8%と、全体の傾向より低く、「家族・親族のために」(58.2%)が他の世帯より多い。また、「地域のために」(18.9%)も一定の比重を占めています。年代別には54歳以下層の方が、「家族・親族のために」(55.3%)、「地域のために」(16.9%)が他年代より多いのも特徴です。

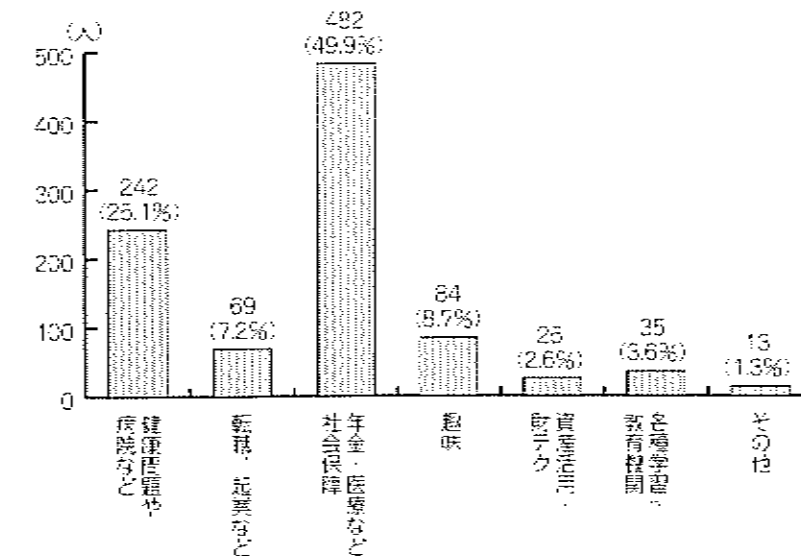
表21 定年後人生の価値基準は

	A(～21年生まれ)	B(22年～25年)	C(26年～)	N/A	合計
自分がしたいことのために	59 69.4%	349 70.8%	250 64.9%	2	660 68.4%
家族・親族のために	42 49.4%	242 49.1%	213 55.3%	1	498 51.6%
地域のために	11 12.9%	74 15.0%	65 16.9%		150 15.5%
世の中のために	12 14.1%	49 9.9%	33 8.6%		94 9.7%
その他	5 5.9%	20 4.1%	9 2.3%		34 3.5%
N/A	1		2		3
合 計					

表22 定年後人生の価値基準(家族構成別傾向)

	一人	夫婦二人	親、子供	夫婦、親	夫婦、子供	夫婦、親、子供	その他	N/A	合計
自分がしたいことのために	53	115	39	28	322	79	20	4	660
家族・親族のために	13	100	15	21	270	71	8		498
地域のために	12	24	4	6	75	23	5	1	150
世の中のために	10	16	9	3	45	9	2		94
その他	3	6	3	1	14	4	3		34
合 計	96/64	267/173	70/46	59/40	726/469	196/122	38/27	5	1436/965

図-5 定年後生活を考える上で必要な情報



5、定年後、仕事以外に関わりたいこと、学習したいこと

将来、仕事以外に関わりたいこととしては、「趣味・スポーツ」(53.1%)「国内・外の旅行」(31.2%)「農作物や園芸」(24.8%)「子供や孫の成長」(16.7%)の順で、個人的関心事が圧倒しています。「ボランティアやNPO活動」(13.3%)や「町内会や地域の手伝い」(14.1%)など社会的な諸活動には消極的です。それでも、あえて聞いた「老後生活において地域社会との関わりや福祉との関わりは深まっていくと思われるが、大切だと思われる活動は何か」との問いに対して、「子供の健全育成や安全確保の活動」(39.6%)「健康保険や医療制度の充実のための活動」(33.7%)「介護やお年寄りの世話・援助」(29.5%)「災害時の救援や地域の安全のための活動」(22.3%)「文化・スポーツの振興に寄与する活動」(20.1%)など社会的活動について関心や「思い」はあるようです。

表23 現在、仕事以外にしているもの

	300万円以下	500万円以下	700万円以下	1000万円以下	1000万円以上	N/A	合計
ボランティアやNPO活動	4 7.8%	8 4.8%	14 3.8%	20 6.0%	1 4.3%	1	48 5.0%
町内会、自治会	10 19.6%	29 17.3%	56 15.2%	77 23.3%	1 4.3%	3	176 18.2%
少年野球などクラブの世話	1 2.0%	6 3.6%	13 3.5%	18 5.4%	1 4.3%	1	40 4.1%
自分自身の趣味・スポーツ	18 35.3%	76 45.2%	170 46.2%	160 48.3%	13 56.5%	6	443 45.9%
大学や学習機関で勉強	3 5.9%	2 1.2%	1 0.3%	1 0.3%	1 4.3%	0	8 0.8%
求職・起業のための研修	1 2.0%	0	2 0.5%	3 0.9%	0	1	7 0.7%
老後の準備	1 2.0%	3 1.8%	15 4.1%	9 2.7%	0	1	29 3.0%
農作物を育てる	5 9.8%	15 8.9%	33 9.0%	32 9.7%	3 13.0%	5	93 9.6%
その他	2 3.9%	5 3.0%	11 3.0%	6 1.8%	1 4.3%	0	25 2.6%
何もしていない	21 41.2%	54 32.1%	122 33.2%	82 24.9%	6 26.1%	7	292 30.3%
N/A	3	13	23	14	2	5	60
合 計							

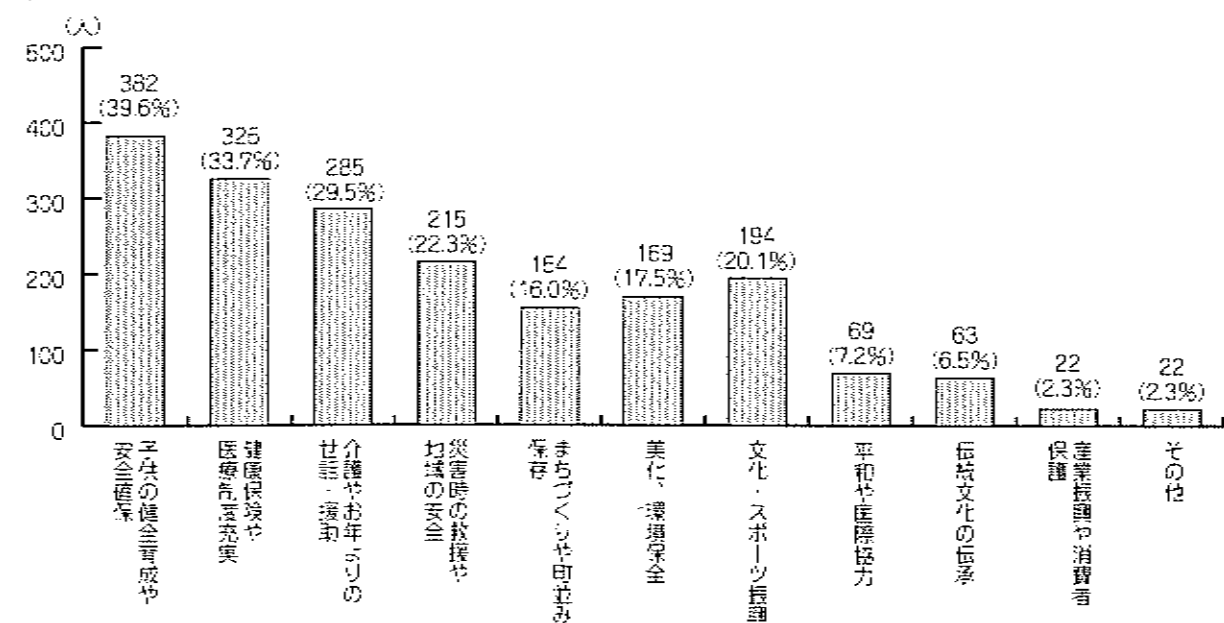
表24 将来、仕事以外で関わりたいこと

	男 性		女 性		合 計	
ボランティアやNPO活動	114	12.9%	14	16.9%	128	13.3%
勉強や講座への参加	74	8.4%	21	25.3%	95	9.8%
田舎や海外での生活の準備	80	9.1%	5	6.0%	85	8.8%
趣味やスポーツ	459	52.0%	53	63.9%	512	53.1%
農作物や園芸	225	25.5%	14	16.9%	239	24.8%
町内会や地域での手伝い	129	14.6%	7	8.4%	136	14.1%
子や孫の成長	146	16.6%	15	18.1%	161	16.7%
国内・外の旅行	267	30.3%	34	41.0%	301	31.2%
親の世話や介護	78	8.8%	23	27.7%	101	10.5%
特になし	80	9.1%	4	4.8%	84	8.7%
その他	6	0.7%	1	1.2%	7	0.7%
N/A	10		2		12	
合 計						

表25 将来、仕事以外で関わりたいこと（世代別）

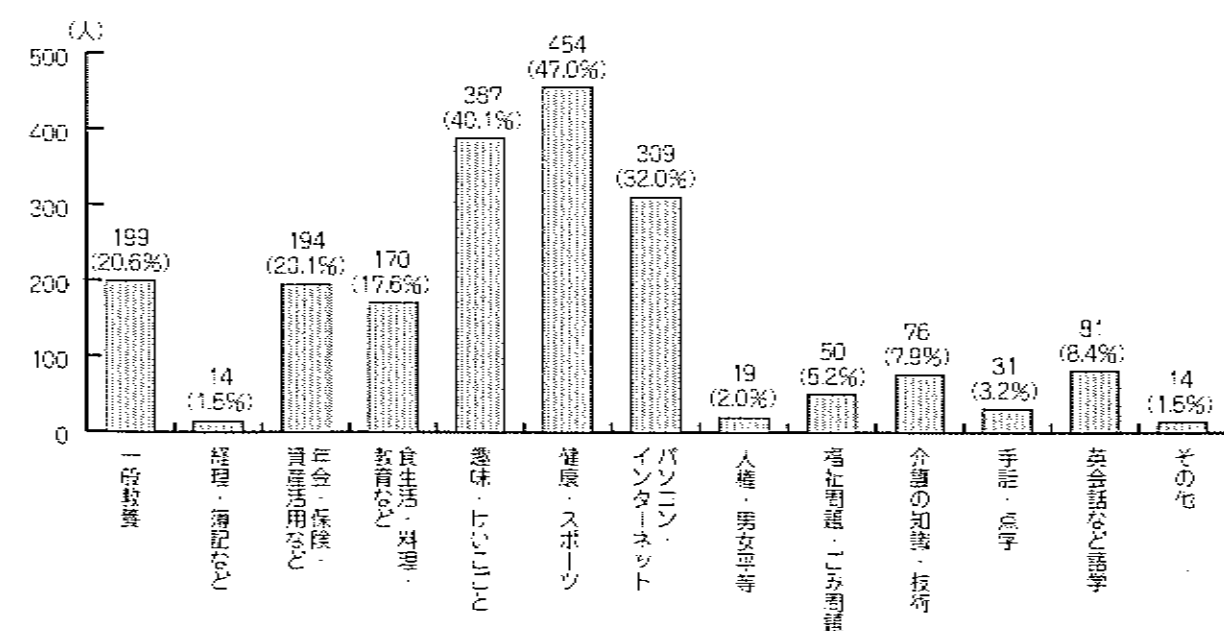
	A(～21年生まれ)		S(22年～25年)		C(26年～)		N/A	合計	
ボランティアやNPO活動	11	12.9%	65	13.2%	50	13.0%		128	13.2%
勉強や講座への参加	11	12.9%	48	9.7%	36	9.4%		95	9.8%
田舎や海外での生活の準備	2	2.4%	44	8.9%	39	10.1%		85	8.8%
趣味やスポーツ	39	45.9%	263	53.3%	209	54.3%	1	512	53.1%
農作物や園芸	23	27.1%	138	28.0%	78	20.3%		239	24.8%
町内会や地域での手伝い	6	7.1%	77	15.6%	53	13.8%		136	14.1%
子や孫の成長	12	14.1%	83	16.8%	66	17.1%		161	16.7%
国内・外の旅行	23	27.1%	165	33.5%	111	28.8%	2	301	31.2%
親の世話や介護	7	8.2%	47	9.5%	47	12.2%		101	10.5%
特になし	8	9.4%	34	6.9%	40	10.4%		84	8.7%
その他			5	1.0%	2	0.5%		7	0.7%
N/A	6		28		18			52	
合 計									

図-6 老後の地域社会・福祉の関わりで大切だと思う活動



「時間的余裕ができた場合にしたい学習・勉強のテーマ」を聞いたところ、「健康法やスポーツなど」(47.0%) がトップで、「絵、書、音楽、囲碁など趣味、けいこ事」(40.1%) 「パソコン・インターネットなど」(32.0%) と続きます。

図-7 したい学習・勉強は



団塊世代のライフスタイルと学習に関するアンケート調査

京都勤労者学園

「2007年問題」と言われ、団塊世代の人たちが定年年齢を迎え、そのことがもたらす影響がいろんな分野で表われる、とされています。今回、京都勤労者学園ではその対象世代の方々の定年年齢を迎えての生活設計や備え、意識の情を知るために、以下のような設問によるアンケートを労働団体の協力を得て行なうことにしました。結果につきましては有力いただきました団体はもとより、学園事業や行政施策において参考とさせていただきます。ご協力方よろしくお願ひします。

2006年2月

設 問

問1、あなたの性別は ① 男性 ② 女性

問2、あなたの生まれた年は 昭和 年

問3、あなたの主たる職種は何ですか

- ① 現業 ② 販売
③ 事務（一般事務・管理事務含む） ④ 技術・開発
⑤ その他

問4、あなたの家族構成（同居）をお聞かせください

- ① 一人 ② 夫婦二人
③ 貴方と親、もしくは子供 ④ 夫婦と親
⑤ 夫婦と子供 ⑥ 夫婦、親、子供
⑦ その他

問5、あなたの昨年のおおよその年収は

- ① 300万円以下 ② 500万円以下
③ 700万円以下 ④ 1000万円以下
⑤ 1000万円以上

問6、貴方の勤務先では定年制がありますか

- ① ある ② ない

その2 ① の場合その年齢は何歳ですか
 歳

問7、貴方は定年まで現在の勤務先で働き続けたいですか

- ① 働き続ける ② 早期退職したい
③ その他

問8、貴方の勤務先では定年後の雇用延長制度がありますか。

- ① ある ② ない
③ 現在交渉中 ④ その他

問9、定年後の勤務について

- ① 現在の勤務先で継続して働きたい
② 他の勤務先をみつきたい
③ 自営業をしたい
④ 起業に挑戦したい
⑤ 職業生活から引退したい
⑥ まだ決めていない
⑦ しばらくゆっくりしてから考える
⑧ その他

問10、定年後も仕事を続けたい理由は何ですか。（複数選択可）

- ① 社会的に必要でいたい
② 経験や技術を活かしたい
③ 仕事に生き甲斐を感じている
④ 経済的な理由
⑤ 健康を維持するため
⑥ 仕事を通して社会に貢献したい
⑦ 家にいても退屈
⑧ その他（ ）

問11、定年後の生活を考える上で必要だと思う情報はどのようなものがありますか

- ① 健康問題や病院などに関する情報
② 経理、起業などに関する情報
③ 年金・医療など社会保障に関する情報
④ 趣味に関する情報
⑤ 資産活用・財テクのための情報
⑥ 各種学習・教育機関に関する情報
⑦ その他

問12、定年後の人生について価値基準はどこにおきますか（複数選択可）

- ① 自分がしたいことのために
② 家族・親族のために
③ 地域のために
④ 世の中ののために
⑤ その他

問13、働きたい時間はどれくらいですか

- ① 常勤（週5日程度）
② 非常勤・パートタイム（短時間労働）
③ わからない

問14、何歳くらいまで働きたいですか

- ① 年金（満額）支給開始年齢まで
② 70歳くらいまで
③ 働く間はずっと働きたい
④ その他

問15、収入を伴う仕事から退いた後、どのような収入で暮らしますか。（複数選択可）

- ① 本人、及び配偶者の年金
② 年金と配偶者の収入
③ 子どもや孫からの援助
④ 預貯金を取り崩す
⑤ 株や不動産などの資産運用による収入
⑥ 自営業収入
⑦ その他（ ）

問16、現在、仕事以外に何かをされていますか。あてはまるものを選んでください。（複数選択可）

- ① ボランティアやNPO活動に参加している
② 町内会や自治会の世話
③ 少年野球やスポーツクラブの世話
④ 自分自身の趣味やスポーツ
⑤ 大学や学習・研修機関などで勉強している
⑥ 就労や起業のための教育・研修を受けている
⑦ 田舎や海外での生活など老後の準備
⑧ 市民農園や家庭菜園で農作物を育てる
⑨ その他（ ）
⑩ 何もしていない

問17、将来、仕事以外で関わりたいこと、関心のあることは何ですか。（複数選択可）

- ① ボランティアやNPO活動への参加
② 学習機関・施設での勉強や講座への参加
③ 田舎や海外での生活の準備
④ 趣味やスポーツに力を入れる
⑤ 農作物や園芸
⑥ 町内会や地域でのお手伝い
⑦ 子や孫の成長
⑧ 国内・外の旅行
⑨ 親の世話や介護
⑩ 特に無い
⑪ その他（ ）

問18、老後の生活において地域社会との関わりや福祉との関係は、一層深まっていくと思われますが、あなたが大切だと思われる活動はどのようなものですか。（複数選択可）

- ① 子供の健全育成や安全確保のための活動
② 健康保険や医療制度の充実のための活動
③ 介護やお年寄りの世話・援助活動
④ 災害時の救援活動や地域の安全を守る活動
⑤ まちづくりや町並み保存の活動
⑥ 美化活動や環境保全の活動
⑦ 文化・スポーツの振興に寄与する活動
⑧ 平和や国際協力に関する活動
⑨ 伝統文化の伝承に関する活動
⑩ 産業振興や消費者保護の活動
⑪ その他（ ）

問19、時間的余裕が出来た時、したい学習・勉強はどのようなものですか（複数選択可）

- ① 一般教養（歴史、政治、経済、文学など）
② 経理・簿記などの仕事に役立つ事務
③ 年金・保険・資産活用等ライフプランに関するもの
④ 食生活・料理・教育などの家庭生活に関するもの
⑤ 趣味・けいここと（華道・茶道・絵画・書道・音楽・囲碁・将棋など）
⑥ 健康・スポーツに関するもの（健康法・テニス・水泳・登山など）
⑦ パソコン・インターネットなど
⑧ 人権・男女平等
⑨ 福祉問題・こみ問題
⑩ 介護の知識・技術
⑪ 手話・点字
⑫ 英会話などの語学
⑬ その他（ ）

感想やご意見があれば記入してください。